

## ①ディレクトフォーアス

ディレクトフォーアスでは私が予想していた以上に遥かに上をいく内容であった。

初めにパワーポイントを使用し、エネルギー問題についての講義をして頂いた田中伸男様の話はこれからの社会を担う私たちにとってとても重要な内容だった。石油、原子力等の今の日本になくはないエネルギーの話聞き、私たちがエネルギーの無駄使いをしているうちはエネルギー問題はなくなると感じた。しかし、工業の発達を遂げるためにはエネルギーが大量に必要で、その使用するエネルギーが本当に必要かを見極めることも非常に大切であると感じた。このお話を聞き、私たち日本は工業化が進み発展する時期はすでに過ぎたと考えられることがわかった。そのため日本が今エネルギーを大量に使うべきではなく、他の中国やインド、発展途上国に譲与し、他国の発展を助けるべきではないだろうかと思つて改めて思う。これを実現するためには私たちはエネルギーを大切にし省エネを意識していくべきだと感じた。また、原発についての話では福島第一原発の事故は人災であると話されていた。津波のせいだけだと勝手に認識していたが、この津波を少しでも予想していなかったために起こった事故であるとはじめて知った。後処理の仕方も決定されていない状況で原子力発電を使用することが間違えだと思った。IEA はシナリオを作成していたがこのシナリオはある条件を満たすために必要な技術、政府の対応を社会に発表するために作られているもので予想ではないことを知った。政府はこの情報により行動していることもあとわかり、IEA の力の大きさに驚いた。田中伸男様の話を聞いてエネルギーがどれだけ大切かということも改めて感じる事ができた。

田代純様に日本財団のことについてお話を頂いた。日本財団は大きく広くいろいろな活動をなさっているそう。特に行政の手が行き届かない部分を優先的に行き、そのおかげで私たちは震災後たくさんの場所に支援が届き、生活するお金が支給された。また支援する優先順位は今一番支援を必要としているところはどこかと考え、決めていかなければならない。これは今もそして今後の問題となると感じた。

安達公一様は社長という存在についてのお話をしていただいた。社長という立場では、は人材育成が大切である。社長のみがしっかりしていても部下や社員のことも考えなければいけないためである。目指す人物像は寛容な心を持つ、信頼される人であった。また、将来の夢をしっかり持つことも大切だそう。

前川美湖様はニュージーランドへの留学をしたことがきっかけで国際的な職に就きたいと考えたのだそう。そのためには語学力は必須であると思つたため、たくさん勉強なされたそう。また、好奇心は何をするのにも大切であることを教えていただいた。

青木ゆたかさん様には社会に出るときに必要なことを教えていただいた。常に社会では何が起きているのかを知るべきで変化に耐えられる基盤を作っておくべきだと聞いた。そして、対応する能力も大切であることを知った。高校生のうちにしておくべきことを聞くと五感で感じる体験をたくさんすることであると答えてくださった。また、常に「なぜ」と思つて行動していくことで新たな知識が自然と入ってくる。失敗したとしてもそこから学ぶことが大切で自立すべきであると感じた。

今回のディレクトフォーアスで私は素晴らしい方たちと出会う事ができた。話をしてくださったかたたちは、自分が社会に貢献できることを探し、自分の職へと繋げている方ばかりだった。話を聞いているうちに、目標を持って常に行動していくことの大切さがわかり、自分が少し成長

した気がした。

### ③OBOGによる懇談会

東京大学に進んだ先輩方の話を聞かせていただくことができた。まず驚いたのは、二高から東京大学へこんなにもたくさんの方が進学していることだ。東京大学は日本のトップであり、いろいろな考えを持った人が集まり、自分の好きなことに熱心になれるそんな場所だと改めて魅力を感じた。進振りについての話を聞いたとき学部はいろいろな種類の学部があって文転をしている人もいたので、いろいろな方向性が見えた気がした。東京大学の試験はとても難しい。特徴としては限られた時間でどれだけ多くの問題を正確に解けるかにかかっているところだ。問題は時間をかければ解けるのは当たり前。それをいかに早く解くことができるかが鍵となる。その中を勝ち抜いてきている先輩方の話は興味深いものだった。現代文の勉強の仕方としては、文章の意味を理解しているかどうかが一番のポイントだそうだ。知らない単語がひとつあったら、それはいかにできていないとは言わない。そして、知らない単語があったとしても短時間で予想し、理解することに努めなければならない。また「どういうことか」、「なぜか」という類いの質問があるときはまずその答えを一言で考えると選択肢を絞ることができる。他にも答案を作るとき文末をまず決め、そのあとに付け足していくようなイメージで作っていくと作りやすいとわかった。数学では、これから習う微分積分がとても大切だと教えてもらった。

また、数学のチャート式をやるときはまず一回全てを解き、解けなかった問題に印をつけておく。二回目解いてみて解けるかどうかを確認する。勉強は二週目からであり一周目は準備でしかない、と聞き本当に驚きました。一回で満足していた自分はまだまだなんだと改めて感じた。勉強が続かない人はどうすれば良いかと質問したところ、どれだけ忙しくても必ず何かはやると決めることが大事だと答えてくださった。十五分でもいいから、毎日勉強をしていると、勉強をする習慣がつくようになるそうだ。そして、英語と数学をてを抜かずしっかり理解することを一年生のうちから意識している方が良いと教えていただいた。

何かを覚えるとき前日やったことをもう一度やる。そして次の日も前にもどってやるのが大切だそうだ。視覚的に覚えていくやり方もありだと話していた。視覚的に覚えるためには繰り返すことが大切だと思った。よく問題になる、辞書は紙派か電子派かで分かれるが、一人の先輩はどちらも同じくらい活用したという。使い分けについて尋ねると、紙の辞書を使うときはその単語の使い方や用法を知りたいときで電子辞書を使うときは、その単語の意味を知りたいとき、または時間がないときだそうだ。このように使い分けをすることで紙の辞書と電子辞書のそれぞれの利点、長所をいかすかできていたと思った。受験勉強ばかりになる前に、たくさんの本を読むべきだとほとんどの先輩がいていた。勉強はもちろん大切だが、文学の知識がないと社会に出たときに相手にされないそうだ。世間で話題になっている本や著名人が書いた本など幅広く読むことが必要だとわかった。そして本だけでなくいろいろなことに興味を持つことが大切だそうだ。そして、欲を持ち自分の思うままに行動することもあっても良いと話していた。まずは可能性を信じるべきだし、はじめから低いところを目指すのではなく、高い目標を持つべきだと思った。目標を持つのは自由で、実際に学力が足りなくてもずっと東京大学を目指し続けた人は努力を続け、東京大学へ合格したという話もある。この事を聞いて、目標を高く持ち自分の可能性を、信じたいたいと改めて感じることができた。